

広島大学・日英欧研究学術交流センター
Research Institute for Japan, the UK and Europe (RIJUE)

H29会人4

開催日 平成29年6月21日～平成29年6月22日(2日間)
開催地 21日 同志社大学・22日 広島大学 学士会館コンフェレンスホール
申請者 広島大学 教授 秦 由 美 子

会議の概要と成果

6月21日

「高等教育の未来：日英米の国際比較」

(The Future of Higher Education in Japan, the UK, and the USA)

同志社大学国際センター、サセックス大学高等教育・公正性研究センター、広島大学日英欧研究学術交流センターの共同主催、同志社女子大学国際部の共催のもと、「高等教育の未来：日英米の国際比較」(The Future of Higher Education in Japan, the UK, and the USA)をテーマとしたセミナーを、同志社大学寒梅館で開講した。奇しくも3名の女性講演者となったが、テーマと概要は以下の通りである。

講演者1 坂東久美子氏は、日本社会が直面

する変化と日本の大学が抱える様々な問題・課題に言及し、激しく変化する社会の中での高等教育の機能強化、産業構造の変化や新たなニーズへの対応に向けた高等教育改革の積極的な推進の必要性について提起した。

講演者2 山田礼子教授は、近年のOECD諸国の高等教育政策の特徴として、説明責任重視、市場化、学習成果の重視がある。特にアメリカにおける質保証に向けた政策動向、学習成果評価動向、間接評価・直接評価の開発について紹介し、今後の日本の大学では、3つのポリシーをチェックする機能が求められると締め括った。

講演者3 ルイーズ・モーリー教授は、本来高等教育の目的は、デモクラシーを推進し、公平性を拡大することに目的があったが、昨



今の過度な人的資本への投資や市場化、世界ランキング、競争的資金の獲得、といった経済的側面が重視されることになった結果、経済競争においてプラスをもたらす人間育成に焦点が当てられるようになっていく。この様な状況から生じる高等教育の閉塞状況を、是正していくことの必要性を提起した。

6月22日

『若手研究者向けアカデミック・セミナー』

第一部では、磯崎哲夫教授とグレゴリー・プール教授による司会により、3名の広島大学若手研究者および1名の同志社大学若手研究者を迎えての英語での論文発表が実施された。

それぞれの発表内容は、1) “The Development of School Medical Service in the early 20th Century in England and Wales : Focus on the Work of London School Clinics”、2)

“How do Japanese pre-service science teachers develop their teachers knowledge during teaching practice in schools?”、3) “It’s Not Necessary” : Japanese Students Judgments of Historical Significance”、4) “Rethinking Student Migration”であったが、それぞれの発表は非常に質が高く、先進的内容であった。それら三人の発表に対し、フロアから多くの質問、コメント、指摘がなされた。

第二部においては、著名なクリティカル・シンキング研究者であるサセックス大学のエミリー・ダンヴァーズによる高度な論文の書き方についての講習があった。全員がグループに分かれ、ディスカッションや指導を受けながら、より優れた論文作成の知見を得る時間となった。

セミナー開催後には、広島大学構内のマーマイド・カフェにて交流会を開催。東広島の名産である酒を中心としたミニ・酒祭りも開催した。

